

よりよい社会の実現を目指す子どもが育つ社会科学学習

名古屋市立植田南小学校教諭 岡 沙 織

I 研究のねらい

現代社会は、経済のグローバル化やICT技術の進展などを背景に、これまでの枠組みを超えて、事業や人と組織の関係性、資源などが複雑に絡み合っている。また、社会における課題も多様化しており、従来の考え方や方法では、解決できないことが増え、先々までの見通しをもつことは、今後更に難しくなってくると考える。学習指導要領の改訂の経緯にも、「このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」との記述がある。今後更に、困難さを増していくと思われる社会を生き抜いていくために、子どもたちは、社会の課題がもたらす影響や現状の取組を複数の視点から捉えた上で、他者と協働しながら、よりよい社会の実現を目指すための考えを構築していかなければならない。ここでいう「よりよい社会の実現」とは、SDGsの理念にもあるように、これからの未来を見据えた持続可能な社会、多様な他者と協働して解決していく共生社会の実現を目指すことである。

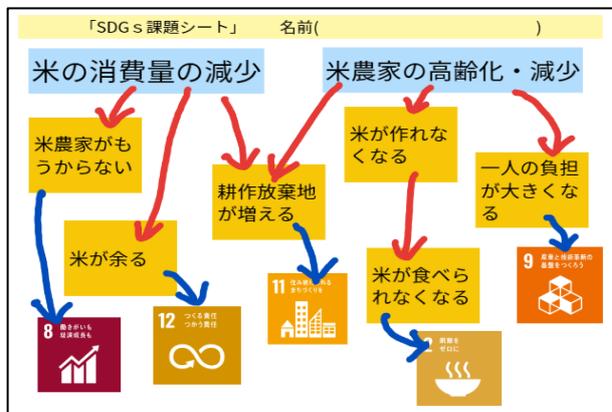
筑波大学教授の唐木清志氏は、著書の中で、「社会のしくみを理解させるために問題解決的な学習が役立てられるほかに、将来子どもがそのような課題に直面した時に、課題の解決に積極的に関与し、望ましい社会づくりに貢献できるようになることを念頭に置いて授業は構成されなければならない。子どもの社会参画を見据えた社会科授業づくりが必要とされている。」としている。そこで私は、社会の課題がもたらす影響や現状の取組を複数の視点から捉えた後、課題の解決方法を他者と協働して考える活動を通してよりよい社会の実現を目指す子どもを育てたいと考えた。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立植田南小学校 第5学年 29人

2 基本的な考え

社会の課題がもたらす影響を複数の視点から捉えるために、出合う段階で、学級全体で捉えた課題を基に、その課題がもたらす影響とSDGsの目標（社会の課題の解決に取り組むための視点）とを結び付けて、「SDGs課題シート」にまとめる活動を取り入れる【資料1】。その後、調べる段階で、産業に関わる人々の、社会の課題に対する取組とSDGsの目標とを結び付ける活動を取り入れる。SDGsは目標の相互関連と新しい未来像の構築を目指すという特徴がある。よって、この活動を取り入れることで、産業に関わる人々の取組が何を目的として行われているのかを整理し、社会の課題に対する取組を複数の視点から捉えるこ



【資料1 SDGs課題シート】

とつながると考える。さらに、SDGsの目標を視点として、持続可能な産業のために、今後力を入れて取り組むべきことを話し合う活動を取り入れる。その際、考えた取組のメリットやデメリットについて意見を出し合いながら、よりよい社会の解決策を話し合うようにする。そうすることで、他者と協働しながら、よりよい社会の課題の解決策を考えることにつながると考える。

(1) 「SDGs取組シート」の活用

調べる段階で、「現状の社会の課題に対する取組」「取組の利点」「取組と関係のあるSDGsの目標」を、1枚のシート（SDGs取組シート）にまとめる活動を取り入れる。そうすることで、調べた取組が、「産業の技術革新を目的として行われている」「よりよいまちづくりのために行われている」などといったSDGsの目標を視点として整理され、社会の課題に対する取組を複数の視点から捉えられるようにする【資料2】。

「SDGs取組シート」 名前()		
米農家の取組(～すること)	利点(～につながり)	SDGsの目標の達成につながる
ドローンやAIを使ったスマート農業	仕事の負担が減る	8 産業と技術革新の基盤をつくろう、9 持続可能な消費と生産
品種改良して、おいしくて強い米を作る	売れるお米を効率よく作れる	2 気候変動に具体的な対策を、8 産業と技術革新の基盤をつくろう
企業化して、地域の人の田をあずかる	耕作放棄地が減る	11 持続可能な消費と生産
米を使った新しい商品の開発	米の消費量が増える	12 持続可能な消費と生産

【資料2 SDGs取組シート】

(2) 複数の立場を意識した「未来解決会議」の設定

考える段階で、SDGsが達成年限としている2030年までに、その産業において、力を入れて取り組むべきことを選択させる。さらに、その取組を改善したり、より効果の高い取組になるように内容を付け足したりして、その後の2030年以降に取り組むべきことを考え、よりよい課題の解決策について話し合う活動を取り入れる。

まず、調べて分かったことを基にして、2030年までに力を入れるべきと考える、SDGsの目標とその目標と関連する、社会の課題に対する取組を選ばせる。その後、選んだ取組を基にして、さらに、2030年以降に取り組むべきことを考えさせる。そしてその取組がもたらす利点（メリット）や、その取組を行うと困ることや問題点（デメリット）をまとめさせていく。その後、取組を選んでいる子ども同士でメリットについて意見交流をして、自分の提案に他者の意見を付け足したり、よりよい解決策になるように書き換えたりする活動を取り入れる。さらに、違う取組を選んだ子どもとも、デメリットについて意見交流する時間を設け、自分の提案に付け足したり、修正したりしながら、よりよい解決策をまとめていくようにする。また、外部人材を交えた話し合い活動も取り入れ、修正すべきことを指摘してもらい、自分の考えを見直すことで、現実と乖離した考えで終わらないようにする【資料3】。そうすることで、他者と協働しながら、よりよい社会の課題に対する取組を考えることにつながると考える。

「未来解決会議」 名前()

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



2030年までに力を入れて取り組むべきこと

米農家は、スマート農業を取り入れて、楽に農業ができるようにする。



2030年以降に取り組むべきこと

会社は、ICTの技術をどんどん進化させて、全自動で田植えや水の管理ができるようにする。

【困ること・問題点】

お金がかかる。
技術がそこまで発展するのかが。

【持続可能な未来】

仕事の負担が減れば、農家になりたい人が増える。
人が少なくとも、農業を続けることができる。




～未来解決会議を通して出た意見～

お金がかかるので、小さな農家を合体させて、企業化していけばよい。
技術の発展のために、農業以外の会社とも協力して、開発を行う。
国が補助金を出すようにする。

【資料3 未来解決会議で使用するシート】

違う取組を選んだ子どもとも、デメリットについて意見交流する時間を設け、自分の提案に付け足したり、修正したりしながら、よりよい解決策をまとめていくようにする。また、外部人材を交えた話し合い活動も取り入れ、修正すべきことを指摘してもらい、自分の考えを見直すことで、現実と乖離した考えで終わらないようにする【資料3】。そうすることで、他者と協働しながら、よりよい社会の課題に対する取組を考えることにつながると考える。

3 「米づくりのさかんな地域」「わたしたちの生活と森林」における学習展開

単元	「米づくりのさかんな地域」 (9時間)	「わたしたちの生活と森林」 (9時間)
目標	我が国の米の生産や、米づくりに関わる人々の課題に対する取組について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上などに着目して、資料を活用して調べ、まとめることで、米づくりに関わる人々の工夫や努力を捉えることができる。また、その働きとSDGsの目標を結び付ける活動を通して、これからの米づくりや農業の発展について考え、表現することができるようにする。	我が国の森林資源の働きや森林の現状、森林資源の育成や保護に従事している人々の課題に対する取組などについて資料を活用して調べ、まとめることで、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力を捉えることができる。また、その働きとSDGsの目標を結び付ける活動を通して、これからの森林保全や林業の発展について考え、表現することができるようにする。
段階	主な学習活動	
出合う	① 資料を基に、日本の米づくりの特徴や課題やSDGsの目標と結び付け、「SDGs課題シート」にまとめる。 ② 愛知県内の米農家Hさんの話を基に、学習問題を設定する。	① 資料を基に、森林の働きや森林の現状、課題と、SDGsの目標と結び付けて、「SDGs課題シート」にまとめる。 ② 森林保護に携わるMさんの話を基に、学習問題を設定する。
	学習問題①：“農地を守り、未来につなぐ”ために、どのような取組をしているのだろう。	学習問題①：“森林を守り、未来につなぐ”ために、どのような取組をしているのだろう。
	“農地を守り、未来につなぐ”ための取組を予想して、学習計画を立てる。	“森林を守り、未来につなぐ”ための取組を予想して、学習計画を立てる。
調べる	③④⑤ 学習計画を基にして、本時で調べる問いを明らかにしながら、調べ学習を進める。	③④⑤ 学習計画を基にして、本時で調べる問いを明らかにしながら、調べ学習を進める。
まとめる	⑥ 調べる段階で分かった、米づくりに関わる人々の取組が、SDGsの目標の何番と結び付けられるのかを考え、「SDGs取組シート」にまとめる。	⑥ 調べる段階で分かった森林の保護や林業に関わる人々の取組が、SDGsの目標の何番と結び付けられるのかを考え、「SDGs取組シート」にまとめる。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 関連するSDGsの目標 (視点) 目標 2、3、4、8、9、11、12、17 </div> 「SDGs取組シート」を基に、学習問題についてまとめる。 【検証場面1】	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 関連するSDGsの目標 (視点) 目標 3、4、8、9、11、12、15、17 </div> 「SDGs取組シート」を基に、学習問題についてまとめる。 【検証場面1】
考える	⑦ 米に関わる産業の未来について考え、学習問題②を設定する。	⑦ 森林に関わる産業の未来について考え、学習問題②を設定する。
	学習問題②：米農家の未来を守るために、誰が何に力を入れるべきだろう。 力を入れて取り組むべきことや、その取組のメリット・デメリットを考えてまとめる。 ⑧ 社会の課題に対して、同じ取組を考えている子ども同士や、違う取組を考えている子どもと共に、メリットやデメリットについて話し合う「子ども未来解決会議」を行う。 ⑨ 米づくりに関わる人を交えて、「社会未来解決会議」を行い、学習問題②について、自分の考えをまとめる。 【検証場面2】	学習問題②：森林の未来を守るために、誰が何に力を入れるべきだろう。 力を入れて取り組むべきことや、その取組のメリット・デメリットを考えてまとめる。 ⑧ 社会の課題に対して、同じ取組を考えている子ども同士や、違う取組を考えている子どもと共に、メリットやデメリットについて話し合う「子ども未来解決会議」を行う。 ⑨ 林業に携わる人を交えて、「社会未来解決会議」を行う。学習問題②について、自分の考えをまとめる。 【検証場面2】

4 児童の実態調査

単元「低い土地の暮らし」の「まとめる段階」において、社会の課題に対する取組とSDGsの目標とを結び付けて、社会の課題に対する取組を複数の視点から捉えることができているか、学習問題①に対するまとめの記述から調査する。また、単元の終末において、子ども同士の意見交流や外部人材との話し合い活動を生かしながら、社会の課題の解決策を考えることができているかを質問紙法と、学習問題②のまとめの記述から調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「調べる段階」において、「SDGs取組シート」を活用して、「現状の課題に対する取組」「取組の利点」「取組と関係のあるSDGsの目標」とを結び付けてまとめる活動を取り入れることは、社会の課題に対する取組を複数の視点から捉える上で有効か、学習問題①に対する記述内容からつかむ。
- (2) 「考える段階」において、未来目標の達成のために、「未来解決会議」を行うことは、子ども同士の意見交流や外部人材との話し合い活動を生かしながら、よりよい社会の課題を解決する取組を考える上で有効か、学習問題②に対する記述内容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。
5	○ 実態調査を行う。 ○ 第1次授業研究の授業計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践単元「米づくりのさかんな地域」 【検証点1】 「調べる段階」において、「SDGs取組シート」を活用して、現状の課題に対する取組、取組の利点、取組と関係のあるSDGsの目標を、結び付けてまとめる活動を取り入れることは、社会の課題の解決に対する取組を、複数の視点から捉える上で有効か、学習問題①に対する記述内容からつかむ。 【検証点2】 「考える段階」において、「未来解決会議」を行うことは、よりよい社会の実現に向けて、子ども同士の意見交流や外部人材との話し合い活動を生かしながら、社会の課題を解決する取組を考える上で有効か、学習問題②に対する記述内容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学 教授 唐木清志氏 ・世田谷区立代沢小学校 指導教諭 横田富信氏 ・広島修道大学 教授 永田成文氏 ・愛媛大学 准教授 井上昌善氏 ・大分大学 准教授 河野晋也氏 </div> ○ 第2次授業研究の授業計画書を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究実践単元「わたしたちの生活と森林」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、最終
12	のまとめを作成する。
1	○ 「よりよい社会の実現を目指す子どもが育つ社会科学習」について、1年間の成果や課題をまと
2	め、発表する。
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献 唐木清志『社会科の「問題解決的な学習」とは何か』東洋館出版社(2023)